

九州保健福祉大学 社会福祉学部 臨床福祉学科

清水 径子

言葉による抑制に関する介護老人福祉施設職員の認識について

**【新規性】**

介護保険施設等では、介護保険制度開始以降、身体拘束廃止への取り組みが進められてきた。身体的な「目に見える拘束」は廃止に近づいている一方で、スピーチロックと表現される言葉による抑制については施設単位で調査・研究が進められているものの、具体的な言葉については的確に判断できる視点や基準が一定していないのが現状である。本研究では、全国規模で言葉による抑制に対する職員の意識を調査したことに新規性がある。

**【社会的有用性】**

利用者に対する言葉が言葉による抑制に該当するか否かについて施設では明確な判断が難しいという声や戸惑いが挙がっており、判断基準を設定するための基礎的調査・研究が進んでいないのが現状である。本調査が、言葉による抑制廃止に向けたガイドライン作成の基礎的調査となることで、施設での統一した認識や廃止に向けた取り組みへの契機として、社会的有用性が高いと考える。

# 言葉による抑制に関する介護老人福祉施設職員の認識について

清水 径子

九州保健福祉大学 社会福祉学部  
臨床福祉学科

## 【研究概要】

介護保険制度が開始された 2000 年から、介護保険施設での身体拘束廃止が進められている。一方、現場で「スピーチロック」と表現されている言葉による抑制については、あまり言及されておらず、施設によっては廃止に向けた取り組みが行われているものの、認識や対応は様々な状態であり、施設の方針に委ねられている。

言葉による抑制（スピーチロック）に関する職員の認識と実態について調査した。

キーワード：身体拘束、言葉による抑制、スピーチロック、介護老人福祉施設

## 【はじめに】

言葉による抑制（スピーチロック）は、「身体拘束廃止」の中での広義の意味として、手足、体幹を紐等で縛る等の身体的な拘束（フィジカルロック）、向精神薬等の薬物を使用した拘束（ドラックロック）や介護者からの言葉による抑制の 3 ロックの一つとして認識されている。しかし、概念や定義として一定のものがあるわけではなく、施設によっても様々な解釈があり、それぞれの施設で対応策を検討している状況である。一般的に施設で認識されている言葉による抑制（スピーチロック）とは、言葉によって利用者の行動を抑制、制限したりする介護者の対応を指している。具体例として、「動いたらダメ」、「早く食事して」「立ち上がらないで」や、「どうしてそんなことをするの」のような叱責の言葉が対象となる。

アメリカの社会老年学における高齢者虐待の定義の中で、高齢者を「馬鹿にする」「怖がらせ

る」「中傷する」「脅かす」あるいは「子ども扱にする」等の「言葉による又は情緒的な虐待」<sup>1)</sup>については「言葉による抑制」と同義だと思われる概念が取り上げられている。日本の高齢者虐待防止法では、第 2 条 4 項において「高齢者に対する著しい暴言又は著しく拒絶的な対応その他の高齢者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと」という表記がある。

日本では、言葉による抑制は、身体拘束からの側面だけでなく、不適切なケアから高齢者虐待へとつながる可能性も否定できない<sup>2)</sup>。言葉による抑制廃止に向けた取り組みについては、施設単位で研究されているが、的確に判断できる視点が曖昧である。

そこで、本研究では言葉による抑制の具体例に対し、職員の認識や現状を調査することとした。

## 【研究目的】

言葉による抑制の具体例について職員の認識を明確化し、どのような場面で使用するのかを把握し、言葉による抑制の現状を明確化する。

## 【研究方法】

調査対象は、全国の介護老人福祉施設の職員 5000 名とし、郵送調査を実施した。Wam-net より無作為に 2500 施設を抽出し、1 施設より 2 名の職員にアンケート調査を依頼した。調査期間は、平成 26 年 7 月～8 月とした。

アンケート内容は、例えば「座っていて」という言葉が、どのような場面で言葉による抑制に該当するか、どのような場合に該当しないのかという認識状況について調査した。

「言葉による抑制」の例文は、施設単位でのマニュアルや研究発表事例より抽出し、18 の例文を調査項目とした<sup>3)～9)</sup>。

さらに、自由記述において施設内で言葉による抑制だと思われる言葉を使った場面を明記し、言葉による抑制を使用している場面を明らかにした。

倫理的配慮については、各施設に本研究の趣旨、調査は任意であること、調査データを研究以外の目的で使用しないことを明記した調査説明書及び同意書を調査票に添えて郵送した。なお、本研究は九州保健福祉大学の倫理委員会の

承認を得た上で実施した。

### 【結果】

964名（回収率19.3%）から回答を得た。そのうち、同意書の不備によるもの等を除いた929名（有効回収率18.6%）を有効回答として調査に用いた。

調査対象者の基本属性は、次の通りである。性別は、女性565名（60.8%）、男性363名（39.1%）であり、年齢は、18～65歳（平均38.5±10.4歳）であった。職種の経験年数については1年未満～39年（平均10.1±6.4年）であった。職種は、介護職が756名（81.4%）で、相談援助職が101名（10.9%）、看護職が22名（2.4%）、その他が37名（4.0%）であった。保有資格については、介護福祉士が769名（82.8%）、ホームヘルパー及び初任者研修受講者が291名（31.3%）、介護支援専門員が230名（24.8%）、看護師が26名（2.8%）、社会福祉士が68名（7.3%）、その他が116名（12.5%）、保有資格なしが17名（1.8%）であった。

言葉による抑制の認識は、「知っている」が398名（42.8%）であり、「少しは知っている」が223名（24.0%）、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が134名（14.4%）、「初めて聞いた・知らない」が9名（1.0%）であった。

言葉による抑制の項目については、18の例文について、どのような場合に言葉による抑制に該当するかを複数回答可にて調査した。（表1.参照）

言葉による抑制の使用頻度については、「1日に何度も使用している」が333名（35.8%）、「1週間に数回程度使用している」が304名（32.7%）、「月に数回使用している」が109名（11.7%）、「3か月に数回使用している」が18名（1.9%）、「ほとんど使用していない」が85名（9.1%）、「その他」が30名（3.2%）であった。

言葉による抑制を廃止することはできるかについては、「不可能である」が30名（3.2%）、「なくしたいが難しい」415名（44.7%）、「代わりの言葉を使えば可能」403名（43.4%）、「廃止する必要はない」4名（0.4%）、「廃止することは可能」40名（4.3%）、「その他」19名（2.0%）であった。

### 【考察】

言葉による抑制は、主に認知症高齢者への介護の中で日常的に起こる行動や言動に対する職員の対応の中で生まれている。「座っていて、立たないで、そこにいて」「動かないで」「待って」「やめて」「〇〇したらダメ」の言葉は、介助する中での転倒や不潔行為等の緊急性が高い場合によく使われることが明らかとなり、理由を説明すれば言葉による抑制に該当しないという認識を4割程度の職員がしていることが示された。

「早く〇〇して」の言葉は、主に食事や入浴の場面で使われることが明らかとなり、早く食べてください、早く服を脱いでください等と職員の焦りや時間に追われることからくる言葉であり、いかなる場合でもスピーチロックに該当すると認識する職員が72.3%と多いことが示された。「同じことばかり言って」「また〇〇なの？」では、何度もナースコールを押す利用者や何度もトイレに行きたい等と同じ訴えを繰り返す利用者に対する言葉が多く、業務に追われる職員がストレスを抱え、口にする言葉であることが推察され、いかなる場合でも言葉による抑制に該当すると認識する職員が8割程度と多いことが示された。「無言で介助する」についても、職員の心理状態からの行動であることが分かり、いかなる場合でも言葉による抑制に該当すると認識する職員が83.3%と多いことが示された。

「言い方が優しくければ」や「言葉の後に謝罪を行う」、「利用者との良好な関係性」、「利用者の表情の変化」は、言葉による抑制には該当しないと考える職員が1割程度であり、言葉による抑制に該当するか否かの基準にはなりにくいことが明らかとなった。

### 【まとめ】

本調査からは、言葉による抑制が使われる背景として、転倒や転落を防ぐ等の安全性の確保のため、不潔行為などによるとっさの言葉、業務過多からすぐに対応ができなかった場合の言葉、職員自身が認知症の症状への理解が不十分な場合に精神的にイライラすること等からくる発言が多くみられることが明らかとなった。

今後は、言葉による抑制に対する適切な対応

に向けたガイドラインを作成すべく、施設での廃止に向けた取り組みや工夫、取り組みの中での戸惑いや改善例などの調査を進める予定である。

本調査は、平成 26 年度より「介護倫理からみた言葉による抑制（スピーチロック）廃止へのガイドライン作成に向けた研究（課題番号 26780334）」の予備調査として科学研究費助成事業若手研究（B）の助成を受け実施した。

【文献】

- 1) 多々良紀夫編「高齢者虐待—日本の現状と課題—」中央法規。2001.
- 2) 檜木 博之「虐待になっていませんか？あなたの言葉遣い第2回スピーチロックの判断と改善」高齢者安心安全ケア実践と記録 10 (1). 47-52.2012.
- 3) 鳥越寿子他「言葉の行動抑制（スピーチロック）廃止についてスタッフの意識改革への取り組み」全国介護老人保健施設大会抄録集 23.2012.
- 4) 原克行「スピーチロックの廃止に向けて「何げなく」使ってしまう言葉を見直そう」高齢者安心安全ケア 14 (2). 31-39.
- 5) 大野美穂子他「スピーチロック廃止に向けての取り組み～ゆったりソフトにこやかに～」社会福祉事業団職員実践報告・実務研究論文集 34.134-157.2011.
- 6) 真田豊子「言葉と行動の抑制ゼロをめざして」ふれあいケア 10 (7). 6-9.2004.
- 7) 高橋尚子「「みえない拘束」廃止への取り組みスピーチロック廃止に向けての一報告」認知症ケア事例ジャーナル 6 (3). 273-276.2013.
- 8) 2) 同掲.
- 9) 大西国子「言葉の拘束スピーチロック研修会の実践を評価～アンケート調査を通して」回復期リハビリテーション病棟協会研究大会プログラム抄録集 21.132.2013

項目	いかなる場合(状態)でも該当		緊急性が高い場合は非該当		言い方が優しければ非該当		丁寧な言葉遣いに変えれば非該当		理由を説明すれば非該当		言葉の後に謝罪があれば非該当		関係性が良好だと感じる脚が感じれば非該当		利用者が不機嫌になったり感情が変わったりしなければ非該当		いかなる場合でも非該当		その他	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
a 座っていて、立たないで、そこにいて	376	40.5	424	45.6	91	9.8	141	15.2	445	47.9	115	12.4	64	6.9	57	6.1	16	1.7	40	4.3
b 動かないで	387	41.7	442	47.6	70	7.5	119	12.8	384	41.3	107	11.5	54	5.8	45	4.8	18	1.9	34	3.7
c 待って	272	29.3	361	38.9	87	9.4	211	22.7	521	56.1	135	14.5	69	7.4	47	5.1	26	2.8	39	4.2
d あとで来ますから	165	19.9	256	27.6	81	8.7	234	25.2	577	62.1	168	18.1	67	7.2	57	6.1	42	4.5	40	4.3
e 早くOOして	672	72.3	175	18.8	48	5.2	66	7.1	144	15.5	63	6.8	47	5.1	43	4.6	27	2.9	25	2.7
f やめて	416	44.8	197	21.2	73	7.9	132	14.2	448	48.2	84	9.0	56	6.0	46	5.0	27	2.9	28	3.0
g やめて	365	39.3	297	32.0	65	7.0	141	15.2	423	45.5	78	8.4	54	5.8	42	4.5	28	3.0	32	3.4
h どこと行くの？	139	15.0	155	16.7	123	13.2	443	47.7	358	38.5	56	6.0	77	8.3	93	10.0	93	10.0	44	4.7
i どうしてそんなことするの？	390	42.0	130	14.0	92	9.9	221	23.8	299	32.2	51	5.5	52	5.6	54	5.8	60	6.5	41	4.4
j OOしたらダメ	515	55.4	227	24.4	46	5.0	95	10.2	344	37.0	57	6.1	48	5.2	42	4.5	21	2.3	26	2.8
k 同じことばかり言ってる	796	85.7	52	5.6	48	5.2	47	5.1	69	7.4	41	4.4	40	4.3	40	4.3	35	3.8	23	2.5
l ちがう	416	44.8	109	11.7	68	7.3	128	13.8	391	42.1	56	6.0	57	6.1	51	5.5	38	4.1	36	3.9
m 抑えているの？	175	18.8	136	14.6	169	18.2	504	54.3	64	6.9	64	6.9	79	8.5	100	10.8	86	9.3	55	5.9
n またOOなの？	728	78.4	61	6.6	61	6.6	87	9.4	47	5.1	47	5.1	54	5.8	60	6.5	38	4.1	28	3.0
o 無言で介助する	774	83.3	61	6.6	61	6.6	87	9.4	47	5.1	47	5.1	46	5.0	47	5.1	43	4.6	46	4.9
p OOちゃんと呼ぶ	592	63.7	61	6.6	61	6.6	87	9.4	47	5.1	47	5.1	103	11.1	89	9.6	51	5.5	196	21.1
q あなたで呼ぶ	609	65.6	61	6.6	61	6.6	87	9.4	47	5.1	47	5.1	104	11.2	76	8.2	47	5.1	181	19.5
r おいちゃん、おばあちゃんと呼ぶ	553	59.5	61	6.6	61	6.6	87	9.4	47	5.1	47	5.1	131	14.1	102	11.0	57	6.1	164	17.7

表 1. 言葉による抑制(スピーチロック)項目の認識